

「令和5年度第1回高知県食の安全・安心推進審議会」

開催日時：令和5年6月14日（水）14：00～16：30

場所：高知城ホール 4階多目的ホール

委員氏名：中澤委員、久委員、竹島委員、小島委員、安藤委員、西村委員、谷内委員、渡邊委員、宮崎委員、山本委員

議題：次第参照

1 開会

- ・委員17名中10名の出席で審議会成立。

2 健康政策部長挨拶

3 議事

(1) 第4次高知県食の安全・安心推進計画に基づく昨年度の取組報告及び今年度の計画について

- ・事務局より資料1、2-1について説明。
- ・各担当課から資料2-2について説明。

◇審議

委員

①資料2-1の学校給食における地場産物の活用（金額ベース）について、従来の食品ベースから金額ベースに変わったことで、割合に変化が出づらくなってはいないか。

②資料2-2 3ページ括弧書きで記載された戸数が減少しているが、畜産農家数が減っているのか心配になった。

2項目目の「畜産農家」は3項目目の「牛の飼養農家」も含んでいるのか。定義が分からないので教えてほしい。

③ワクチン接種については牛の目標に対する実績の割合が高いが、特に牛について進んでいるということか。

保健体育課

①従来の食品数ベースでは現場での努力が反映されにくかった。金額ベースになり、現場の努力が反映されやすい指標になったと認識している。なお、金額ベースになると数値は全体的に高く出る。

畜産振興課

②高齢化により農家戸数が減っているが、農家の規模拡大により頭数は増えている。

「牛の飼養農家」は乳用牛と肉牛、「畜産農家」は牛の飼養農家のほか、豚、採卵・肉用の鶏も含まれる。

③牛が特別進んでいるということではなく、必要なワクチン接種はそれぞれできている状況。

委員

①資料 2-2 朝食摂取率の低い9校が、他校と比べて低い理由はあるのか。

②肥満児は減少傾向であるか。食育の推進の影響がどれほどでているか。

保健政策課

①全国体力・運動能力、運動習慣等調査において朝食摂取に関する設問があり、R3年度とR4年度を比較して悪化しているところを重点校として拾い上げている。

保健体育課

①朝食を摂取できない理由は、昨年度の調査では「時間がない」が1位だった。単に摂取だけでなく、生活リズムの改善から取り組む必要がある。

②栄養教諭の業務はこれまで「食に関する指導」「給食管理業務」が主なところであったが、それに加えて「個別的な指導」が必要として、意識的に取り組もうとしているところである。近年、個別的な指導が必要な児童、生徒に対する取組を推進しており、一定の影響はあると考える。

委員

夜食事をとる時間が遅くて、朝食べないのではと思う。中学生女子がいつも朝食摂取の割合が低いのは理由があるのか。全国的な傾向か。

保健体育課

全国平均で見ても減少傾向。生活リズムは絡んでいると思われる。(テレビ、ゲームの時間が増えている)

委員

IPMについて、シンナムアルデヒドを使った防除、環境制御技術を活用した病害発生予測はどのくらいまで実現に近づいているのか。

環境農業推進課

シンナムアルデヒドについては、国の適用拡大を待つ段階になっており、秋頃には登録、冬には実用化と考えている。

灰色カビ病やすずカビ病、なすやきゅうり、トマトに登録が取れる段階。環境制御技術は、試験場で研究し、データが集まってきている段階。今後さらに現地へ広めていく流れになる。

委員

シンナムアルデヒドを使用した野菜にその旨の表示は必要になるのか。

環境農業推進課

防除のために使うものなので農薬として登録され、表示は不要。

委員

いろいろな調査物が集まるようになったと思うが、各課の調査については、相手に負担のかからない、分かりやすいアンケート等の中身であるように考えてもらいたい。

①GAPについて、農場で行われるものについては理解しているが、出荷時のチェックも含まれているのか。

②有機野菜について、高知県では安くて良い野菜が手に入るので、有機野菜と普通の野菜の価格差がマッチしていないようにも思う。有機野菜に関して何か県で連携している部分があったら教えてほしい。

③鳥インフルエンザについて、県内では発生はなく、卵は安定して生産されているのか。

環境農業推進課

①生産から出荷、環境から労働安全に至るまで一貫してGAPの取組を行っている。出荷場でもGAPの取組は行われている。

②有機野菜については、当課は生産が中心になるので、農産物マーケティング戦略課や有機農業推進協議会と連携して流通販路の開拓を計画している。

農産物マーケティング戦略課

②流通するにはある程度の量が必要であるが、有機野菜は生産量が少なかったり、時期が限られるものが多いため量販店では扱わずらい面があった。どのようにすれば扱えるのか量販店にも調査し、販路拡大を探る。

畜産振興課

③幸い県内での鳥インフルエンザの発生はなかった。供給は安定しているが、エサ代の高騰もあり、価格は高くなっている。

委員

フライパンや水道水、包装紙に含まれている有機フッ素化合物（PFOA）について、検査計画（食器類）の中に含める予定はあるのか。

薬務衛生課

県の検査機関としては衛生環境研究所があるが、外部に委託している検査もある。新しい検査を行うには、定められた方法での検査ができるのか、機器はあるのか、等確認する必要があるため、検査を受ける機関の状況や、検査そのものの必要性を確認のうえ、来年度以降の検査計画を検討する。

委員

①資料 2-2 の 2 ページ上段、有機農業の取組延べ面積「408ha」の算出根拠を教えてください。

②鳥インフルエンザモニタリングの「720羽以上」は、実飼育数に対する割合から算出しているのか。

③18 ページの食育に関心を持っている県民の割合について、自分の周りでも「食育」という言葉を耳にするが、数値が低いように思う。調査の実施対象を教えてください。

環境農業推進課

①国の方でみどりの食料システム戦略が発表され、基準年×2.7で計算されており、これを高知県にもあてはめた。

畜産振興課

②3 ページの本年度の計画にあるように、6戸×12ヶ月×10羽＝720羽となる。6戸は国が定める家畜防疫指針で決められている。

保健政策課

③高知県県民健康・栄養調査が元になっているが、本調査では経済地帯別に地区を選んでいる。対象者のうち、生活習慣調査内の設問に回答した方を母数としての結果である。女性は7割を超えるが、男性の方が低く、結果として59%となる。

委員

養殖ブリフィレ加工時の身割れ対策が夏に集中しているのはなぜか。ブリの身の温度が上がったりした場合、品質に問題はないか。

水産業振興課

水温が高い時期に身割れが発生しやすい。また、酸欠状態でブリが暴れることで身割れが発生しやすいこともあり、酸素濃度も関係すると考えられている。魚を締めたあとの氷水の水温を下げ、酸素を供給すると身割れが少なくなった調査結果が出ている。

委員

①監視指導について、在宅者への弁当宅配や、デイサービス等への食事提供を行う施設も対象に含まれているのか。

②遺伝子組換えでない食品表示について、消費者に分かりにくくなっている。普及啓発はどうなっているか。

薬務衛生課

①監視指導の対象に含まれており、定期的に行っている。施設内の調理器具等の拭き取り検査や、お弁当やお惣菜の検査も定期的に行っている。

農産物マーケティング戦略課

②指導業務は国が一括して行っており、県においてはセミナー等で事業者への啓発を

行っている。今のところ個別相談事例は受けていない。込み入った相談については事業者が消費者庁等の所管に問い合わせしている状況である。

委員

事業者だけでなく、一般消費者に分かりやすい啓発をぜひお願いしたい。

(3) 分科会の開催について

- ・事務局より資料3について説明。
- ・テーマ及び座長は次のとおり決定。
 - ア 「食品表示について」 座長：竹島委員
 - イ 「環境保全型農業の最新情報」 座長：久委員

4 報告

- ・高知家あんしん会食推進の店認証制度の終了について、薬務衛生課から説明。

5 閉会

◇連絡事項

- ・分科会は秋頃、第2回審議会は1月頃を予定。